

神さまは、サムエルに、ベツレヘムへ行って、エッサイの家を探し出し、その息子たちのだれかに油を注ぐようにと言われました。油そそぎは、神さまが人を選ばれ、お立てになることを表すもので、預言者や祭司や王の就任の時に行われました。サムエルはいけにえの儀式に町の長老たちとエッサイとその息子たちを招きました。神さまの心をくじを用いて伺ったと思われます。こうして、7人の息子たちがサムエルの前に来ましたが、神さまは誰も選ばれません。サムエルは神さまの心を疑いませんでした。そこで、サムエルはエッサイに、「あなたの息子はこれだけですか」と尋ねますと、エッサイは、「末の子が残っていますが、……」と言いました。この時未成年であったダビデはこの場に招かれていませんでしたが、ダビデが連れて来られた時、神さまはサムエルに、「これがその人だ」と言われました。

神さまは何故ダビデを選ばれたのでしょうか。その理由は「人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」という言葉によって表されています。直訳は「人は目によって見るが、主は心によって見る」です。これは、「人を外見で判断してはいけない。人の心を見るのだ。」という教訓的な話ではないのです。「人は目によって見る」とは、相手の外見を見るのではなく、自分の目や相手の心を理解したり、様々な自分の感覚によって、人を総合的に見て、判断することを言っているのです。それに対して「主は心によって見る」とは、相手の外見ではなく心を見て判断することではなくて、神さまが神さまご自身の心によって人を見られる、という意味なのです。ダビデの選びについて言うならば、神さまは、ダビデがその心において正しく、正直であり、神さまを信じる信仰を深く持っているからダビデを選ばれたのではないのです。神さまは、相手がどうかではなく、神さま自身の心によって人を見られ、人を選ばれ、立てられるのです。そこには、神さまの私たちに対する限りない愛と、救いの恵みがあったのです。

私たち一人一人においても同じことが起っているのです。神さまは私たち一人ひとりに対して、その生を絶対的に是認して、なお生きよと言ひ、いつも共に歩んでくださっています。私たちはそのことに気がついて、信仰を与えられ、教会に連なる者とされました。あるいはこの礼拝へと導かれました。その理由は何一つ、私たちの中にはないのです。それは、神さまの心によるのです。私たちをその心によって見つめ、招いて下さった神さまは、まだ愛されていることに気がついていない、神さまに見つめられていることに気が付いていない人々にも同じ心によって見つめ、招いていて下さっているのです。